環境とともに

グループ事業の展開に合わせ、環境マネジメントシステムの範囲を拡大するとともに、環境負荷の大きな活動を明らかにし継続的な評価・見直しを進めています。また、環境コミュニケーションに積極的に取り組んでいます。

【環境】各行動計画の実績と評価

主な取り組み			2006年度目標	2006年度結果	評価	2007年度目標	掲載ページ
環境とともに	環境マネジメントシステム	ISO14001の認証を取得	対象店舗、活動範囲を広げ環境活動の継続的改善を実施	ワタミグループ5社の1本社ビルおよび、ワタミ手づくり厨房3センター、外食店舗493店舗の合計497サイト	○	ワタミグループ6社の1本社ビルおよびワタミ手づくり厨房3センター、介護施設1ホーム、外食店舗527店舗の合計532サイト	48
		環境法規制の遵守	食品リサイクル法、廃棄物処理法、容器包装リサイクル法の遵守	違反件数0件	○	違反件数0件	49
	廃棄物3Rへの取り組み	全廃棄物リサイクル率	40%以上	30.6%	×	35%以上	51
		食品廃棄物リサイクル率	20%以上	21.7%	○	28%以上	51
		廃棄物低減の取り組み	1店舗当たり15.1t以下	1店舗当たり16.1t	×	現状維持	51
	地球温暖化防止へ向けて	CO_2排出量の削減	1店舗当たり121t-CO_2以下	1店舗当たり116t-CO_2	○	前年対比2%削減	51
		電気使用量の削減	1店舗当たり27.4万kWh以下	1店舗当たり25.0万kWh	○	現状数値維持	51
		水使用量の削減	1店舗当たり4.3千m^3以下	1店舗あたり4.1千m^3	○	前年対比2%削減	51
		NPO法人の支援（「森づくり」を行うNPO法人を設立・支援）	–	–	–	NPO法人の設立 グループボランティア受け入れスタート ※2007年度より目標を設定	57
	環境コミュニケーション	社内へのコミュニケーション活動を実施	社員への啓発活動実施	5月、8月、10月に実施	○	現状維持	54
		社外とのコミュニケーション活動を実施	環境セミナー・イベントへの積極的出展（講演）	環境セミナー・イベント8件に出展（講演）	○	環境セミナー・イベントへの積極的出展（講演）	55

○達成、×未達成、–該当なし
※対象期間は2006年4月1日～2007年3月31日

環境基本方針

ワタミグループは、「安全・安心」な食材をより多く確保してお客さまに提供するとともに、地球や自然にやさしい環境の保全に貢献することを当グループの責務と考え、すべての店舗および事業所を対象とした環境負荷の削減を図るため、可能な限りの努力を行います。

環境方針 2007年5月1日

1. ワタミグループは、環境基本方針の理念にもとづき事業活動の中で環境影響の大きな項目について、環境目的・目標を設定して取り組み、その結果を見直していきます。
2. 特に以下の項目に取り組むために具体的な環境行動計画を策定し、継続的改善および汚染の予防をお約束します。
   - ●電気使用量の削減
   - ●水使用量の削減、排水の水質改善
   - ●生ゴミ廃棄量の削減
   - ●3Rの推進（リデュース・リユース・リサイクル）
   - ●廃棄物リサイクル率の向上
   - ●温暖化対策の推進
3. ワタミグループの活動に関連する環境法規制および当グループが同意するその他の要求事項を順守します。
4. ワタミグループのすべての従業員に対して継続的に教育を行い、環境に対する意識を高めるとともに本方針の浸透を図ります。
5. 本方針を適切な機会をとらえて積極的に公開し、開示要望にお応えします。

ワタミの環境活動は今、大きな転換期

ワタミグループ環境管理責任者
ワタミエコロジー(株)
代表取締役社長・COO 川辺 壽也

1999年の環境宣言から8年、グループ事業も活発化し、ワタミの環境活動は今、大きな転換期を迎えようとしています。

ワタミグループの経済活動から排出される廃棄物の削減は、リサイクルするだけでは限界があります。リサイクル中心の廃棄物削減から、より効率の良いしくみを模索する時代となりました。

外食事業では、2007年度からは、3Rの考え方に立ち返り、まず廃棄物の発生抑制として外食店舗の割り箸の廃止（リユースできる箸の導入）を実施しました。

介護事業では、2007年度、老人ホーム「レストヴィラ座間谷戸山公園」でISO14001の認証を取得、環境活動がスタートしました。

今後も、このような新しい施策にチャレンジするとともに、現在行っている既存のリサイクルシステムのブラッシュアップを実施して、ワタミグループの環境のミッションである「美しい地球を美しいままに子どもたちに残していく」活動を拡大していきます。

グループ事業の展開に合わせて、環境への取り組みを拡大する とともに「継続的な取り組み」の評価・見直しを進めています。

マネジメントシステムの強化と範囲の拡大

ワタミグループでは定期的に内部監査を実施して、本社および外食店舗における環境活動の継続的改善に努めています。特に店舗監査はISO9001の仕組みを利用して、店舗サービスの品質確認と是正を目的とした業務監査と同じタイミングで実施しています。

その中で、監査員は主に環境活動の進捗を含めた従業員への浸透度、法規制の順守状況などをチェックし、毎週実施される業務改革会議にて、統括責任者、営業部宛てに是正処置要求を含めた結果報告をしています。

2006年度はこれらの仕組みを介護施設へ試験的に導入を進め、マネジメントシステムの範囲を拡大するとともに、2007年度からは環境活動に対する監査の頻度を増やし、取り組みをより強化する計画です。

ISO14001の取り組み

ワタミグループは1999年7月に、日本の外食産業として初めて、本社および全外食店舗にてISO14001の認証を取得しました。2005年7月に2回目となる更新審査（3年に1度）を終えて、同月に審査対象店舗、認証範囲を拡大し、改めて認証を取得いたしました。

2006年度は、介護事業においてもホーム（レストヴィラ座間谷戸山公園）の取得を目指し、2007年7月に維持拡大審査を終えて、認証を取得しました。私たちはこれからも対象店舗、活動範囲を広げながらシステムのPDCAの仕組みを活用して環境活動の継続的改善を図っていきます。

●ISO14001 2007年度認証対象範囲

2007年7月に維持拡大審査を終え、ISO14001の登録サイトは、ワタミ（株）、WFS、WDFS、T.G.I.F.J、ワタミの介護（株）、ワタミエコロジー（株）のグループ会社6社の1本社ビルおよび、ワタミ手づくり厨房3センター、介護施設1ホーム、変更審査申請時点での527店舗の合計532サイトとなります。

申請月以降の新規店舗におきましては、未登録ながら同様の活動に取り組み、常に全店舗の登録を推進しています。

ワタミ環境宣言

“美しい地球を美しいままに、子どもたちに残していってあげたい”
次の世代が、今ある美しい地球環境を受け継ぐことができたら、とてもすばらしいことだろう…。このためには、地球に住むひとり、ひとりが変わらなくては、何も変わらない。

（1999年7月29日付　日経流通新聞当社広告）

ISO14001の認証を取得いたしました。
ワタミ環境宣言
“美しい地球を美しいままに、子どもたちに残していってあげたい”
地球に住むひとり、ひとりが変わらなくては、何も変わらない。
外食事業関係者の皆様へ
ワタミフードサービス株式会社

EMS委員会

グループ内の環境活動をより効果的に推進していくために、各社各部署よりメンバー約20名を選抜して月2回、環境マネジメントシステム委員会（EMS委員会）を開催しています。

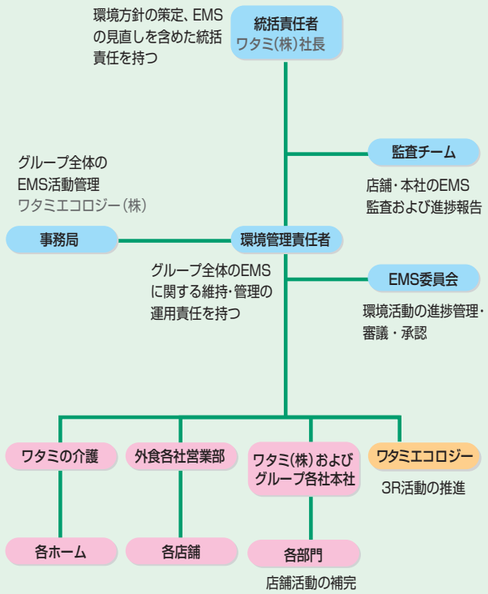
この委員会では、グループ内環境活動の方向性の立案および改訂、具体的行動計画の策定と活動の進捗確認などを行っています。

また、委員会では環境活動のリーダーとなるメンバーのスキルアップを目指して、環境関連施設の視察ツアーや内部監査員養成講習会などを随時実施しています。

2006年度は新たにワタミの介護もEMS委員会のメンバーに加わりました。

ワタミグループの環境マネジメントシステム(EMS)は下記のような組織体制を敷いて、店舗および本社の社員からアルバイトメンバーまで、グループ内すべての従業員で取り組んでいます。

■環境管理体制（2007年4月1日現在）



「環境監査」の実施

ワタミグループでは、2007年度より店舗運営における環境活動への取り組みを強化することを目的として、通常の内部監査に加えて、「環境監査」を開始しました。「環境監査」では、ワタミエコロジーの社員が店舗における廃棄物の分別基準、グリストラップや廃油に関して正しい管理が行われているかなど39項目を確認します。

また、監査結果は、外食各社営業部に伝達され、指摘内容を基づいて店舗で改善活動が行われます。

※「環境監査」は、通常の内部監査項目の中で環境に対応する項目を、より詳細に区分した項目に沿って監査する制度です。
2007年度は年間約150店舗での監査の実施を計画しています。

廃棄物の適正処理について

ワタミグループでは、廃棄物処理に関する法令順守に積極的に取り組んでいます。

2006年度より、コンプライアンス対応ができる廃棄物回収・処理業者を選定することや、新規出店地域別廃棄物処理フローを確認し、各業者様と情報を共有するとともに、排出事業者と各廃棄物事業者との直接契約の締結や、マニフェスト伝票の管理業務の強化など、廃棄物処理に関する仕組みを再整備しました。

クールビズ・ウォームビズ

環境省主催の「チーム・マイナス6%」活動に賛同、様々な取り組みの中で、企業が直接取り組むことができるクールビズ・ウォームビズを推進しています。クールビズ対応では室内の温度を28℃に設定し、ノーネクタイ・ノー上着を実施しました。残念ながら、2006年度は前年を上回る電力・動力の使用量となりました。これは別の場所にあったワタミの介護の事務所機能が、ワタミ本社へ移転したため、該当フロアの電気使用量が前年比120%となり、全体で1ポイント増加となりました（他のフロアでの前年比は99%を確保しました）。

その結果を踏まえ、ウォームビズ対応では、毎月エアコンフィルタの清掃を実施、また室内の温度を20度とし、1日2回の温度チェックの実施、週単位・月単位で前年比の電気・動力使用量と比較し報告することで、使用量で▲6,357kWh、前年比97%を確保し、95千円の削減効果を発揮することができました。

また2006年度より、近い階では極力エレベーターを使わない「2up3down活動」に取り組みました。2007年度も継続していきます。

みんなで止めよう温暖化
チーム・マイナス6%

チームマイナス6%　http://www.team-6.jp/index.html

エアコンフィルタ清掃

温度チェックツール

環境法規制の順守

2006年「食品リサイクル法」施行に向けて、グループ内にて循環型の「生ゴミリサイクルの仕組み」を導入しましたが、今年度は年間を通じてリサイクルシステムの見直しを行ったため、グループ全体の食品廃棄物リサイクル率が8.7ポイント減の21.7%となりました。

「廃棄物処理法」に関しては、産業廃棄物のマニフェスト管理に重点をおいて取り組み、戻り伝票チェックによる適正処理の確認を徹底して行っています。また、廃棄物の中間および最終処分施設の立ち入り調査を継続して実施しています。

「容器包装リサイクル法」に関しては、店舗の料理を、お持ち帰りされるお客さま用のパッケージと袋が年間で14kg発生してしまうため、自社でリサイクル対応できない分を再商品化委託契約にて対応しています。

■法令への対応（一覧）

法　令	容器包装リサイクル法	食品リサイクル法
施行日	1997年4月	2001年5月
要求事項	容器包装リサイクル料の支払い 排出時にリターナブル容器の使用、分別収集の促進	①発生抑制、②再生利用、③減量の優先順位で減容 年間100t以上排出する場合は、総量の20%以上を上記のいずれかの方法で減容
現 状 値	お持ち帰り用パッケージ・袋など再商品化委託量　14kg/年 再商品化委託料金　1千円 プラスチックなどのリサイクル	生ゴミ処理機（破砕乾燥機）9店舗導入 生ゴミ・廃油のリサイクルで21.7% →生ゴミ乾燥物を一部ワタミファームの堆肥として利用
必要な対　応	再商品化委託料金の支払い	発生抑制・減量
順守状況	順守	順守

TOPICS

新しいゼロエミッションの仕組みづくりに向けて

ワタミエコロジーでは、環境負荷軽減への取り組みを継続していくためには、新たに経済的な負担が大きく発生しない仕組みを構築することが必要だと考えています。

環境負荷軽減への成果とコストのバランスのとれたゼロエミッションを目標に、1998年、店舗でのゴミの分別から始まり、2002年にはリサイクルルートが整備された関東近県のエリアで容器包装系のゴミのリサイクルができるようになりました。2003年には生ゴミ破砕乾燥機の導入により生ゴミのリサイクルも可能となり、当エリアでは2004年ゼロエミッションの仕組みができあがりました。

2006年には1日あたり1店舗で発生する生ゴミは43kgから22kgに削減され、現在ではこの削減状況を前提とした新しい仕組みの構築を課題として設定しています。

2007年の食品リサイクル法の改正を受け、新たにサーマルリサイクルを考慮した仕組みづくりを推進し、2008年度上期には新しいゼロエミッションの仕組みを立ち上げるべく準備を進めています。

PDCAに基づいて継続的に取り組みを見直しています。

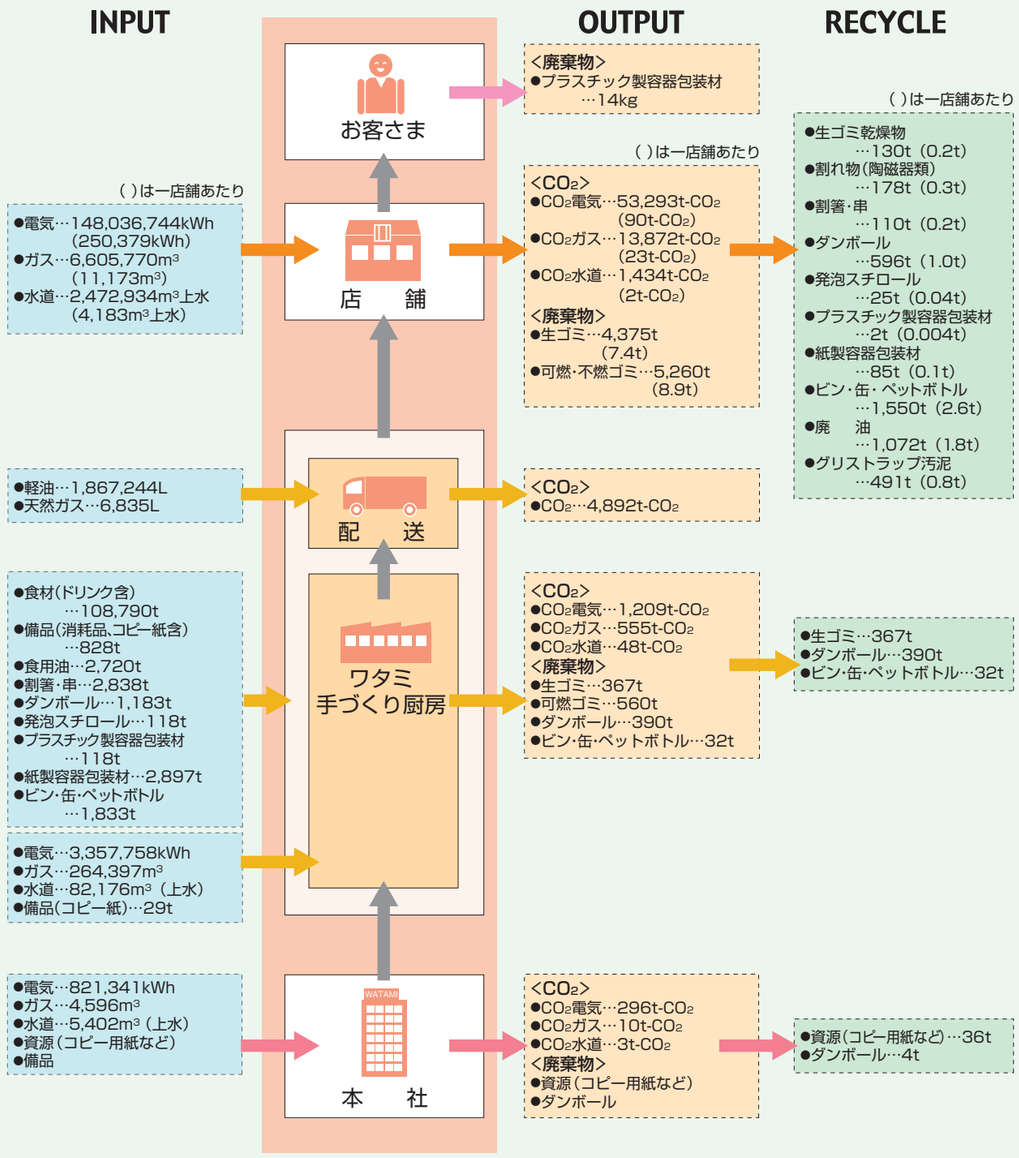
グループ全体の環境影響を把握し、課題を明らかにします。

外食事業や介護事業を展開しているワタミグループにおいて、環境負荷の特徴は、全体の大部分を占める店舗の多品種で小ロットな廃棄物の発生、照明や調理器具の使用および店食材の配送に伴うエネルギー消費量が多いことです。

このことから、環境面における最も大きな課題として、廃棄物の削減と地球温暖化対策に継続的に取り組むことが重要であると考えています。また、そのノウハウを公開することで、業界全体の活動を広く浸透させていくことは、企業として当然の責務であると考えています。

■ワタミのマテリアルフロー図

環境負荷を効率的に削減するために、製造・輸送・販売という流れの中で消費するエネルギー量や廃棄物の排出量などを測定、明らかにしています。



※数値は年間数値（2006年4月1日～2007年3月31日）※「ワタミ手づくり厨房」は、国内3センターを対象 ※投入量(INPUT)に関しては、1999年度に算出した1店舗あたりの食材・備品などの仕入れ物を計量した数値に現在の店舗数に乗じて算出しています。排出量（OUTPUT）は定期計量（年3回、延べ180店舗）数値の平均値を使用しています。※一店舗あたりの数値を除き小数点以下の数値は四捨五入をして記載しています。

□CO_2 排出量算出係数(kg-CO_2/kWh)電気：0.36　□CO_2 排出量算出係数(kg-CO_2/m³)ガス：2.10　□CO_2 排出量算出係数(kg-CO_2/m³)水：0.58

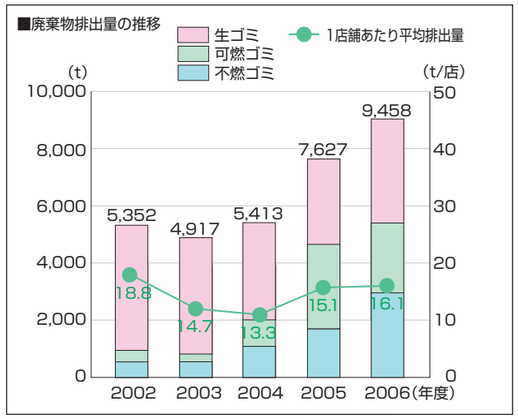
店舗における主な環境影響

廃棄物低減の取り組み

2006年度の全廃棄物排出量は、全店舗合計で9,458t、1店舗換算で16.1tとなり総排出量で、1998年より計測を開始してから過去最大となってしまいました。

これは大量出店や業態変更にともなう改装により廃棄物の排出量が増加したことおよび首都圏のリサイクルシステムの見直しやリサイクルの仕組みを取り入れられない遠隔地域の出店増により、生ゴミのリサイクル量を含めた全廃棄物のリサイクル率が前年比で6.7ポイントダウンし、30.6%となったことなどが原因と考えています。

2007年度は、現在対応が滞っている生ゴミや廃プラスチックを含めた新たなリサイクルシステムの構築を前提として、食品リサイクル率28%、全廃棄物リサイクル率35%の達成を目標に廃棄物リサイクルに取り組んでいます。



■店舗廃棄物リサイクル率の推移

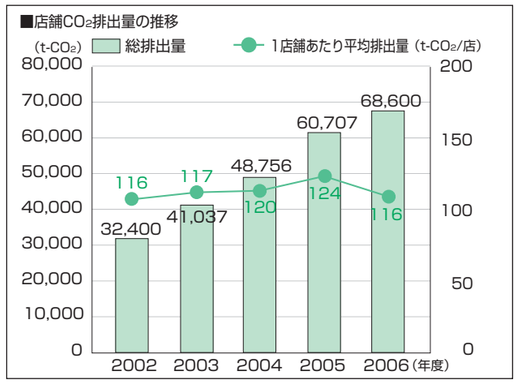
	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
全廃棄物リサイクル率（%）	20.7	39.3	41.2	37.3	30.6
食品廃棄物リサイクル率（%）	10.1	8.3	30.1	30.4	21.7

CO_2排出量の削減について

2006年度のエネルギー使用量によるCO_2排出量は、新規店舗拡大の影響もあり、全店舗で68,600t-CO_2となり、引き続き最大の排出量を記録しています。

しかしながら1店舗あたりのCO_2排出量は、前年比較で7.8t-CO_2マイナスという大幅な改善をしました。これは、エネルギーマネジメントシステム（→詳しくはP52）を活用しムダな電力仕様の削減をすることができたためです。また、各業態別にプロジェクトチームを組んでコスト削減を踏まえたエネルギー使用量の削減に積極的に取り組んだこと、暖冬の影響によるエアコンなどの動力使用量の削減などが改善の要因としてあげられます。

また2006年度より、トラック配送におけるCO_2排出量の把握に向けて、データ収集の仕組みづくりを始めました。2007年度は新規出店に合わせた配送ルートの組み換えおよび帰り便の有効活用による配送の効率化などにより、配送距離、CO_2排出量の軽減化を行っていきます。



■店舗電気使用量の推移

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
総使用量(万kWh)	7,196	8,902	10,760	13,483	14,803
1店舗あたり平均使用量(万kWh/店)	25.8	25.3	26.5	27.4	25.0

■店舗都市ガス使用量の推移

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
総使用量(千m³)	2,715	3,818	4,247	5,193	6,605
1店舗あたり平均使用量(千m³/店)	9.7	10.8	10.4	10.5	11.1

■店舗水使用量の推移

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
総使用量(千m³)	1,362	1,672	1,893	2,172	2,472
1店舗あたり平均使用量(千m³/店)	4.8	4.7	4.6	4.4	4.1

TOPICS

環境事業参入の原点について

環境問題に対して、ワタミが行動を起こしたのは、1995年からでした。当時、ワタミフードサービスでは、お好み焼宅配の「KEI太」という事業を展開していました。

マンションのゴミ捨て場に、山積みになっていた「KEI太」の包装容器、当時は、発泡スチロールを使っていました。

その行方を調べたところ、捨てた後は埋めるしかないと知り、容器を回収することにしました。コストは上乗せになりますが、どうしても「売りっぱなしでゴミを増やす」ことに我慢ができなかったのです。

※2006年度の掲載までは、「電気・水・都市ガス」の使用量算出については、サンプル店舗の使用量平均値に、全店舗数を乗じて算出していました。
2006年度からは、地域や店舗規模により使用量が異なることを考慮しより正確な量を把握するために、算出方法を変更しました。店舗ごとの使用金額を、「地域ごとの単価（電気：1kWhあたり、水：1m³あたり、都市ガス：1m³あたり）」で割り、使用量を算出、全店舗分を加算する方法としています。
なお、「地域ごとの単価」については、2007年1月～3月の期間で、都道府県ごとに1店舗を抽出し、その店舗の単価を適用しています。
※2002年度～2006年度までの数値についても、各年度の使用実績を今回の「地域ごとの単価」で割り、使用量を算出しています。

店舗での取り組み

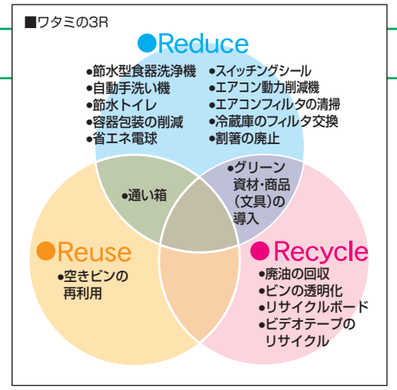
項目の●の色は ● Reduce ● Reuse ● Recycle に対応しています。

店舗運営での3R活動（リデュース・リユース・リサイクル）

環境と調和した経済社会を構築するためには、ゴミの排出を抑え、資源利用効率の最大化を図るという3Rの技術を開発・普及させることが重要と考えています。

ワタミグループでは2007年度より「リサイクルシステムの構築」と「3Rの推進」を積極的に活動を推進していきます。またリデュースの取り組みに代表される省エネ設備の導入は外食店舗だけではなく2007年度より介護施設への導入を開始しました。

■ワタミの3R

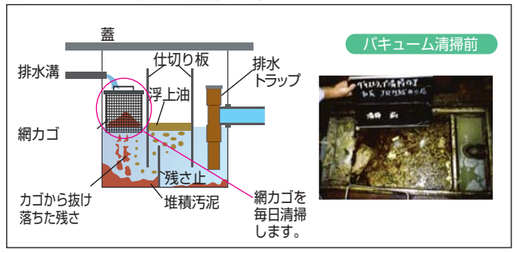


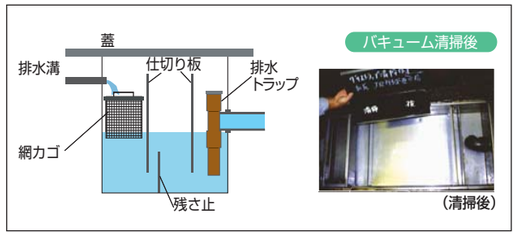
水質改善への取り組み

ワタミグループでは店舗の厨房内から出た油や汚泥が下水処理場に流れるのを防ぐ「グリストラップ」の網カゴ内の残さを徹底して毎日廃棄、清掃を行うとともに汚泥のバキューム回収処理を定期的に実施することによって水質改善を図っています。

また、さらなる改善を目指して、店舗における水質改善装置の稼動テストも継続して行っています。また内部監査の項目に「グリストラップ清掃の状況確認」を組み込み、全店の清掃の状況を把握するとともに、毎週の業務改革会議で報告して継続的に改善を促進しています。

■グリストラップの仕組みと店舗での対応





節水への取り組み

ワタミグループでは水使用量の削減を目的に、店舗においては水の出しっ放し使用や流水解凍を禁止するとともに、グラスの「ため水洗浄」を積極的に推進してムダな水使用を防いでいます。

また、月単位で使用量の計測を実施し、前月、前年の使用量との比較をすることによって、異常値の有無や対策実施効果を常に検証しています。新規店舗出店時には衛生面と水の出しっ放し防止を兼ねて、センサーの感知によって手を触れることなく自動的に水を出したり止めたりできる自動手洗い機の設置と節水仕様の食器洗浄機やトイレを導入しています。

●節水型食器洗浄機
（外食店舗22店、介護施設5ホームに導入）
節水及び洗剤の使用量削減を目標に、節水型の食器洗浄器を27施設に導入しました。

●自動手洗い機
節水と衛生面を考慮して、手をかざした時だけ（自動に）水が出る手洗い機を77店舗に導入しました。

エネルギーマネジメントシステム

2004年8月より、店舗の使用電力を一元管理するモニター機器（電気の使われ方を24時間監視し、ムダな使用を発見して、その抑制を行う使用電力監視システム）を2007年5月現在で284店舗に導入しています。

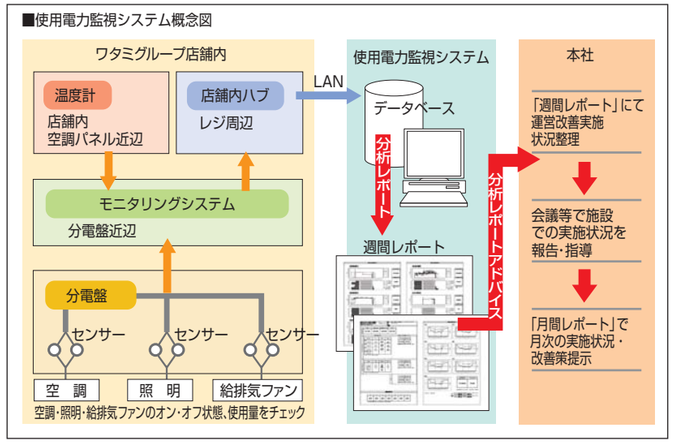
さらに、2005年6月より温湿度センサーを店舗内に取り付け、営業中の客席環境が快適な空間に保てるよう取り組んでいます。

電力のムダに対して各店舗でタイムリーな対策を打つことにより、2006年度は、導入店舗全店で導入前使用量との比較で13.3%、電気料金で1億6,180万円、CO_2排出量で2,913t-CO_2の削減をすることができました（2006年4月～2007年3月の1年間実績）。このCO_2排出量は、森林が1年間に光合成を行う際のCO_2吸収量（※）に換算して、200haに相当します。

2007年度はムダな電気使用量の削減が進まない店舗にワタミエコロジーが個別の指導を強化していきます。

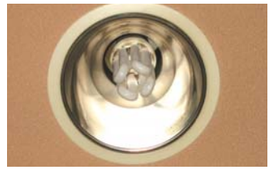
※森林（1haあたり）のCO_2吸収量は14.5t-CO_2/ha（年間）にて換算。

■使用電力監視システム概念図



●容器包装の削減
お取引業者様と協力し、ウーロン茶・緑茶のペットボトルのパッケージフィルムなどの廃棄物を抑制。

●省エネ電球
新店舗では省エネ球の導入を積極的に行い、既存店舗においても交換時に省エネ球への付け替えを推進し、電気使用量の削減に努めています。



●●通い箱
ダンボール納品から「通い箱」納品へ変更しています。店舗から排出されるダンボール排出量が大幅に削減されました。

●スイッチングシール
スイッチに色分けシールを貼り、時間帯によって点灯する電気、点灯しない電気を明確にしてムダな電気の使用を抑えています。

●廃油の回収
使用済みの油は缶に保管後定期回収してリサイクル処理しています。

●ビンの透明化
納入業者様に働きかけ自社ブランド商品ではビンを透明化し、ビンのリサイクルを促進しています。

●エアコン動力削減機
エアコンの室外機を断続的に止めて電力をカットしています。

●エアコンフィルタの清掃
エアコンは月に1回以上、室内機のフィルタ清掃を実施するとともに、年1回、室内機のオーバーホールと室外機の熱交換フィン洗浄を実施しています。

●冷蔵庫のフィルタ交換
故障の予防と機器の延命を目的にフィルタ交換を定期的に行い電力効率をアップさせています。

●●グリーン資材・商品（文具）の導入
本社・店舗でグリーン商品（文具）を積極的に使用しています。また一部の店舗の床材には、リサイクル資材を導入しています。

●ゴミの分別活動（キッチン・フロア）
キッチン・フロアでは各ポジションに応じて分別用ゴミ箱を設置しています。

配送におけるCO_2削減

2006年度は、トラック配送におけるCO_2排出量の把握に向けて、データ収集の仕組みづくりを始めました。

ワタミグループでは、配送業務を委託しているため、お取引業者様も含めたトータルの配送距離削減のための取り組みを推進することが大切であると考えています。取り組みのひとつが、ワタミ手づくり厨房ごとに「集約倉庫」を設け、お取引業者様との協力体制をとった「集約配送ルートの構築」です。

2006年度より、ようやく集計の仕組みができあがり、2006年度9,263千kmの配送距離となり、この時のガソリン使用量をCO_2排出量に換算すると4,892t-CO_2になります。

また同年に外食店舗の店舗展開に伴い九州地区と北海道地区に、荷物の集配業務を行うサテライトセンターを新たに設立し、お取引業者様の配送距離を削減する取り組みも行いました。

今後も継続して、新規出店に合わせた店舗への配送ルートの組み替えおよび帰り便の有効活用による配送の効率化などにより、環境負荷の低減に少しでも寄与していくことを目標としています。

●アイドリング・ストップの徹底
店舗の食材やドリンクの納品時は、全車エンジン停止（アイドリング・ストップ）することをお取引業者様との協議によって決定し、その徹底を図っています。

●天然ガス車の導入へ
2006年度より、お取引業者様との協力のもと、地球温暖化の原因となるCO_2の排出量が、ガソリン車より2～3割低減できる天然ガス車の実験的な導入を北海道でスタートさせています。

環境コミュニケーション（社内・社外）

ワタミグループでは環境について積極的に取り組む意義と、どのような目標をもち実際にどのように活動を行っているのかということを全従業員が理解し、環境に対する思いと知識の共有化を行うために様々な研修を実施しています。

そして、この教育を通して従業員が自立した一人の人間として、環境について考えられるようになってほしいと考えています。

また、「ワタミ環境宣言」にて、ISO14001認証取得に関わる情報や廃棄物のリサイクルなど、自社の取り組み内容を積極的に情報公開する姿勢も表明しております。

さらに、環境意識の向上を目的とし、「環境活動への取り組み」を外部の各種の団体や大学、企業などの要望に応じて紹介しています。

社内におけるコミュニケーション

社員への教育

●店長クラス研修および副店長育成研修

ワタミグループ環境活動の大半は外食店舗であり、店長がその取り組み・推進の要となるため、店長の環境活動に対する理解は環境負荷低減の重要なポイントといえます。

店長には毎年1回、また、副店長に昇格する対象者には、副店長育成研修にて店舗における環境活動の手順についての教育を実施しています。さらに毎週開催される業務改革会議では、環境活動の進捗と対応策の確認を定期的に実施しています。

●新入・中途社員研修

環境問題の重要性とワタミグループが環境問題に真摯に取り組む理由を、入社時研修の中での重要なプログラムとして位置づけて研修しています。この研修により環境に対する意識づけを図ると同時に、研修内容の理解度を確認するテストを行っています。

●本社従業員説明

本社では、年度はじめに、本社で行う当年度の環境への取り組み内容と考え方を伝える説明会を実施しています。

本社従業員には、この研修により環境に対する意識づけを図ると同時に、研修内容の理解度を確認するテストを行っています。

●ISO14001特別研修

ワタミグループでは、EMS委員、内部監査員などを対象として、環境問題や環境活動に関する理解浸透および監査員の養成などを行っています。これらの教育を通して、環境活動の理解浸透と社員の専門性向上を推進しています。

■環境教育実績表（2006年度）

研修名	人数（人）
早朝研修会（ISO審査結果報告、ワタミ（株））	123
中途入社社員研修	563
新入社員研修	389
店長・副店長育成研修	255
本社従業員説明	164
内部環境監査員養成講座	7
ISO14001 特別セミナー（WFS、WDFS）	85
早朝研修会（WFS、WDFS、T.G.I.F.J）	1,429

外食店舗スタッフへの教育

●店舗テーマシートの運用

店舗では、「店舗テーマシート」を用いて、電気・水・廃棄物の削減などの環境改善への取り組みに対する監視測定を毎月行い、その結果と反省をもとに店舗別に次月の計画を策定しタイムリーな対応を行っています。このシートを用いてPDCAサイクルを推進し、全店舗・全従業員への環境活動の浸透と継続的改善を図っています。

●ゴミ分別

店舗ではゼロエミッションを達成するため、リサイクルできるものはすべてリサイクルするという目標を掲げて、1998年より廃棄物の6分別からスタートし、2005年度11月からは12分別を実施しています。店舗で分別された廃棄物は、ワタミエコロジーリサイクルセンターにて、さらに16種類に仕分けを行い、各リサイクル処理施設に送られています。

●環境ビデオレター

店舗では年間1回、ワタミグループの環境に対する考え方を活動を紹介した「環境ビデオレター」を全従業員が視聴し、現状の環境問題の再認識とグループにおける当年度の環境活動の方向性などを確認しています。

●EMS委員会だより

社内報の「EMS委員会だより」コーナーで、毎月ワタミグループの環境活動の取り組み状況を、各部署の代表者から毎月一人ずつ報告しています。

●スタッフルーム

常に目につくところに環境方針や取り組み項目を明示したポスターを貼って、スタッフ同士で環境活動への意識づけを行っています。

●エコツアー

ワタミグループではグループ社員を対象として、年間数回の環境関連施設見学会「エコツアー」を開催しています。このツアーの主旨は、実際に集められた廃棄物がどのように分別されリサイクルされていくかを、自分の目で確認して、分別の大切さや環境活動の現実を知ってもらうことです。

2006年度は、ワタミグループの520名の社員が参加しました。

社外とのコミュニケーション

■外部とのコミュニケーション活動一覧表　一般の方々にワタミグループの環境への取り組みの一端を理解していただくことを目的に各施設で環境への取り組みを紹介しています。

年　月	案　件　名	実　施　内　容
2006年1月	鎌倉市「事業所のための3R推進セミナー」	神奈川県鎌倉市が主催する「循環型社会の形成への貢献」をテーマにしたセミナーに出席し、ワタミグループの廃棄物リサイクルへの取り組みについて講演を行いました。
2006年5月	獨協大学　就職セミナー	獨協大学の就職活動中の学生を対象にワタミグループの環境への取り組みについて講演を行いました。
2006年6月	中小企業向け環境セミナー	京都商工会議所が主催する中小企業向けの環境セミナーにて、ワタミグループの環境への取り組みとして外食店舗における省エネ活動やごみの分別などについての講演を行いました。
2006年8月	最新エコスタイル展	新宿御苑100周年記念事業実行委員会および財団法人地球・人間環境フォーラム主催の「最新エコスタイル展」にて、パネルを出展し、ワタミの環境への取り組みを紹介しました。
2006年11月	高校生環境サミット	東京都立つばさ総合高校が主催する「高校生環境サミット」に参加し、店舗で導入している使用電力監視システムや森づくりの活動について説明したパネルの展示を行いました。
2007年2月	エコフェスタ　ワンダーランド（環境展）	2000年より、東京都大田区が主催する「エコフェスタ」に参加しています。エコフェスタでは、ワタミグループの環境活動への取り組みを説明したパネルの展示を行いました。
2007年2月	「企業の森林（もり）活動の促進に向けて」シンポジウム	林野庁、（社）国土緑化推進機構が主催する「企業の森林（もり）活動の促進に向けて」シンポジウムに参加し、千葉県のブースにてワタミグループの森づくり活動について、活動報告を行いました。
2007年3月	里山活動事例発表大会	任意団体「ちば里山センター」が主催する第1回里山活動事例発表大会でワタミグループの森づくり活動と進捗、今後の方針を発表しました。 また、ワタミグループの環境活動への取り組みを説明したパネルの展示を行いました。

●国内の外食店舗・介護施設でのライトダウン活動の実施

ワタミグループでは2006年度環境省が主催する「ブラックイルミネーション2007」に参加しました。（→詳しくはP44）

2007年6月24日（日）には、20時～22時までワタミグループ外食店舗609店・老人ホーム28棟・ワタミグループ本社の看板を消灯しました（一部、時間・消灯場所が異なります）。

計測が可能な外食店舗221店舗のこの間の電力削減量は1,974kWhとなり、14.5t のCO_2を削減、また電力料金も約39千円を削減することができました。

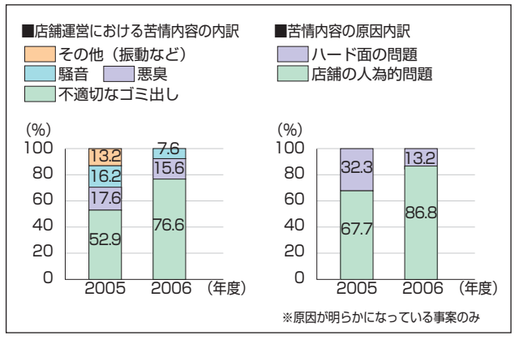
店舗運営に関わる苦情・事故

外食事業の店舗運営に関わる法規制である「騒音、振動、悪臭」に関して、廃棄物の分別の不徹底、出し遅れによる取り残し、液だれなどによる悪臭クレーム、トラック配送・回収時の騒音・振動クレームなどによる計64件の発生を確認しました。

2006年度のクレーム発生件数は前年に比べて19件増加となりましたが、店舗において発生した環境クレームについて確実に報告されるようになり、その対応を最終確認できる仕組みがようやくできあがりました。

クレームが発生した際は、各事業本部、EMS委員会（→詳しくはP48）に報告され、情報を共有するとともに原因を解明し各担当者より是正処置がなされます。

それにより2007年度はクレーム数の低減を目指しています。



TOPICS

割箸の廃止

ワタミグループでは、2007年7月から国内の外食店舗で割箸を廃止し、“繰り返し使える箸”に変更しました。

以前より環境負荷が比較的少ない竹の割箸を使用し、リサイクルすることを推進してきましたが、さらに考え方を進めて廃棄物の発生そのものを抑制します。

これからも環境負荷低減への取り組みを自ら実践するとともに、これらの活動を通じて来店されるお客さまに「環境について考えるきっかけ」を提供できればと考えています。

※焼肉居食屋「炭団（たどん）」のみ、箸の損傷が大きいため割箸の廃止ができていません。

TOPICS

ワタミが環境教育を行う意義
ワタミエコロジー（株）環境部 部長　遠藤 恒夫

外食産業の環境影響は製造業などに比べて著しく少ないと言われています。活動当初は、果たしてそのような外食産業の一企業がISO14001の取得や環境教育に力を入れることに意義があるのだろうか、また店舗においての廃棄物の分別等環境活動が、店舗にとって負担となるのではという懸念もありました。

しかしながら、私たちが環境活動に取り組んで、在籍している数万人の社員・アルバイトさんへの環境教育を行うことにより、地球に住む一生活者として、一人ひとりが環境を意識するためのきっかけづくりになると考え行動に移しました。

結果、今では廃棄物の分別は当たり前のように行い、全従業員が常に環境を意識した行動を起こせる土壌をつくることができたと自負しています。

ワタミグループの環境会計（環境コストと効果の集計）

環境会計の集計範囲は、ワタミグループの本社および全直営外食店舗で2006年4月から2007年3月までに環境保全・管理活動のために支出した投資と費用の額です。

それぞれの活動ごとにコスト項目を特定し、金額を集計しています。ワタミグループでは環境保全コストを大きく3つに分類しました。

（1）店舗・本社における環境目的・目標を達成するための活動に関わるコスト（目的・目標コスト）
（2）環境法規制に対応するために必要なコスト（法規制対応コスト）
（3）環境マネジメントシステムの適切な運用・維持を図り、環境パフォーマンスを改善していくために必要なコスト（環境活動コスト）

集計結果（削減効果）

2006年度の環境保全コストは931百万円でした。その内の47%が目的・目標コストにあたります。この目的・目標コストでは、外食店舗におけるエネルギーマネジメントシステム、省エネ型冷蔵庫、節水型洗浄機などのハード機器導入によるコストが全体の45%を占めました。

これらの導入効果として、電気使用量については導入店舗で基準年である2003年度に対して月あたり13.3%の削減効果を上げることができました。

また、残り53%を占める法規制対応および環境活動コストには、店舗から出る一般廃棄物、粗大ゴミ、廃油、グリストラップ汚泥の回収・リサイクル処理費用、環境担当の人件費、ISO14001審査費用などが含まれます。

なお、2006年度の既存店における省エネ・節水促進および廃棄物のリサイクル化による削減コスト効果は、35百万円となりました。

CO_2の把握と効果測定

2006年度の環境活動によるCO_2削減効果は、3,813t-CO_2になりました。店舗では、業態ごとの見直しやチェック機能の強化を図り地球温暖化に取り組みました。また、小規模業態店舗の出店拡大や暖冬の影響も、今回の好結果につながったものと考えます。

2007年度も今回の結果におごることなく、引き続き地球温暖化の防止対策の強化に取り組んでいきます。

■2006年度 環境保全コスト集計表　（単位：千円）

		コスト項目	具体的な取り組み	コスト
①目的・目標コスト	店舗	電気使用量の削減	エネルギーマネジメントシステム・省エネ冷蔵庫の導入 注1）	178,263
		水使用量の削減	節水型洗浄機の導入 注2）	10,808
		排水の水質改善	グリストラップの管理・清掃・水質検査 注3）	40,260
		生ゴミ、可燃物・不燃物廃棄量の削減	生ゴミ破砕乾燥機の設置・稼動 注4）	7,353
		グリーン資材の導入	リサイクル廃材（エヴァーボード）、エコ文具の新店への導入 注5）	9,137
	本社	リサイクルシステムの構築	リサイクル・ゼロエミッション活動の運用（リサイクルセンター運営、環境委員会活動、再資源委託等）注6）	180,830
		環境教育	従業員への教育の実施 注7）	4,864
		グリーン資材の導入	エコ文具の導入	8,316
			小計	439,831
②法規制対応コスト		適正な廃棄物処理	廃棄物の委託処理（リサイクル化含む）注8）	481,110
		適合性チェック	環境法規制の適合性チェック	1,800
			小計	482,910
③環境活動コスト		環境マネジメントシステムの管理活動	ISO14001の全社・全店舗での運用、環境監査の実施 注9）	7,830
合　計（①+②+③）				930,571

注1）エネルギーマネジメントシステムは293店舗分リース料、省エネ冷蔵冷凍庫は447台の導入コスト　注2）節水型洗浄機28台分（28店舗）
注3）グリストラップの管理・清掃は589店舗分　水質検査は3店舗・9回実施分　注4）生ゴミ破砕乾燥機稼動9台のコスト
注5）リサイクル廃材は21店舗分/エコ文具は新規77店舗 注6）リサイクルセンター（2箇所）運営・再資源化委託費用、リサイクル品回収270店舗および廃油回収589店
注7）従業員8,351人への研修（重複人数）　注8）一般廃棄物589店舗　注9）ISO14001対象532サイト

■2006年度 店舗における経済効果（前年比較）　（単位：千円）

効果項目	既存店の増減額
省エネルギーの推進（電気・ガス）	▲52,453
省エネルギーの推進（水）	▲11,688
廃棄物処理委託費（リサイクルによる差益含む）	29,389
合　計	▲34,752

■2006年度 店舗におけるCO_2効果測定（前年比較）　（単位：t-CO_2）

効果項目	既存店の増減量
省エネルギーの推進（電気）	▲4,341
省エネルギーの推進（ガス）	598
省エネルギーの推進（水）	▲70
合　計	▲3,813

既存店比較対象店舗数：553店舗（2005年度末店舗数）

特定非営利活動法人「Return to Forest Life」について

森を再生させたい！元気にしたい!!
ワタミの森
Return to Forest Life
（NPO法人申請中）

現在、ワタミグループでは、ゼロエミッションやエネルギーマネジメントなどの地球温暖化防止活動を積極的に行っています。2007年度からは、自ら少しでも多くのCO_2を吸収するための森を再生させる活動「森づくり」に取り組んでいます。この活動は、特定非営利活動法人「Return to Forest Life」（申請中）が行う予定です。

森は人の手による整備が行われないと衰退します。過去日本では、里山という考え方により、人間が森にある程度手を入れることで、森およびその周囲の自然環境を守ってきました。しかし、現在日本の森の40%を占める針葉樹中心の人工林は十分な手入れが行われず、樹木が病気にかかったり、老木化し、光合成によるCO_2吸収効率は悪化しています。

私たちはまず、千葉県山武市内にあるワタミファーム山武農場に隣接した、手入れが充分に行われていない人工林から「森づくり」を開始しています。2007年4月には、ワタミグループ社員や活動をご支援いただいている方々にご参加いただき、「植樹祭」を開催し、記念樹の植樹を行いました。

今後は、間伐、下草刈りや植樹などを行いながら、「森づくりに関わるモデル構築」をし、その後少しずつ規模の大きな森の維持・活性化に着手し、少しでも多くのCO_2の吸収と自然環境維持への貢献を目指します。

2007年活動計画

NPO法人「Return to Forest Life」を設立および運営体制確立へ

2007年度は、ワタミエコロジーが主導で運営を行い、専任の担当者を育成して、事務局の運営体制を確立していきます。

森づくりに関わるノウハウの蓄積とモデル構築

地域NPO法人、行政から森づくりのノウハウを学び森づくりのモデルを構築し、地域の特性を生かした森づくり活動を実施していきます。

第二候補地の植生調査の開始

ワタミファームと連携して農地周辺の森の植生調査を行い、活動拠点を広げるとともに地域特性を加味した植樹を検討していきます。また、関西方面での活動も視野に入れた拠点探しを積極的に行っていきます。

資金調達手法を検討する。

ワタミグループからの寄付金以外にも、活動資金確保のため、間伐材を使用した塗箸を株主総会にて販売するなど今後も様々な活動を実施していきます。

植樹祭

伐採

年輪調査

NPO法人「Return to Forest Life」の支援

ワタミグループは、2007年よりNPO法人「Return to Forest Life」の活動の支援を計画しています。

「Return to Forest Life」は、「現在荒廃している森を適切な管理を施すことにより、少しずつ元の姿に戻し、温暖化ガスであるCO_2の吸収を促すとともにたくさんの生き物たちを森に呼び戻し、多くの生き物にとってふるさとである森を次世代の子どもたちに健全な形で引き継いでいく」ことを目的として、「森づくり」に取り組んでいます。

その具体的な活動として、ワタミエコロジーが主体となり、現在充分に手入れが行われていない病気にかかった木や衰退した木に対して、計画伐採、植樹、下草刈りなどをしながら森の活性化を図り、森本来の姿に戻す活動を開始しています。

2006年度は、ワタミグループの社員旅行時にグループ社員計860名がボランティアとして参加し、活動についての説明を受けるとともに、実際に樹木の伐採や下草刈りを体験しました。

ワタミグループでは、「Return to Forest Life」の活動が定着するまで、ワタミグループからの寄付による資金面の支援と、継続的な人的支援をボランティア活動の一環として行っていく予定です。また並行して、ワタミファームの農地周辺の森を活動の拠点として、今後の森の管理及び利用方法などを検証していきます。